

令和4年度第1回人生の最終段階における医療・ケア検討会議 議事要旨

日時：令和4年7月11日（月）午後6時45分～午後8時10分

場所：高知城ホール 2階 中会議室

出席者：委員12名（1名欠席）

事務局（在宅療養推進課）4名

健康対策課1名、長寿社会課1名、中央西福祉保健所2名、

須崎福祉保健所1名

○協議事項

- （1）委員の交代及び追加について
- （2）令和3年度の実績報告について
- （3）市町村の取り組みについて
- （4）令和4年度及び今後の取り組みについて

○議事等概要

- （1）委員の交代及び追加について

事務局より、役員の交代および委員の追加について説明を行った。

【内容等】

- ・高知県看護協会所属の委員が交代となった。
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会及び高知県歯科医師会より委員として参加希望の申し出があった。

【質疑】

なし

【協議】

役員の交代および委員の追加について承認された。

- （2）令和3年度の実績報告について

事務局より、令和3年度の取り組み内容及び実績について報告を行った。

【内容等】

①人材育成

- ・厚生労働省主催の相談員研修の実施。また、医療従事者レベルアップ事業における人生会議の講座及びあったかふれあいセンターコーディネーター研修において人生会議の説明を実施した。

②実態把握

- ・県民世論調査におけるACPの認知度の結果を報告。

③県民啓発

- ・令和3年度に実施を予定していた公開講座及び県政出前講座(新型コロナウイルス感染症の影響により中止)、新聞及び県広報誌への掲載、ポスター、リーフレットの配布を報告。

【質疑】

- ・委員より、委員各々の活動状況を伺ったところ、ヘルパーに対する講座、大学での講座を行ったとの報告があった。
- ・委員より県の広報誌に掲載して反響はあったかとの質問があり、事務局より県民の方から公開講座のお問い合わせがあるなど、一定の反響があった旨回答した。
- ・委員より、これから親の介護が始まる世代(40～50代)にもACPの知識が必要となるため、普及啓発に力を入れてはどうかとの意見が出た。事務局より、昨年度は主に医療介護従事者を対象として広報を行ったが、今年度は民間企業とも連携して若い世代にも啓発を行う旨回答した。
- ・委員より、国の調査では病態によって最期を迎えたい場所が異なるという結果が出ているので県民世論調査でも反映してはどうかと意見があった。

【協議】

令和3年度の実績報告について承認された。

(3) 市町村の取り組みについて

【内容等】

- ・事務局より、令和4年5月に実施したACPの普及啓発に係る市町村アンケートの結果を報告した。また、幡多西部消防組合の管内における、ACPにより意思表示のある傷病者への救急対応に関する取り組みを紹介した。
- ・委員より、傷病者の意思に沿った救急現場における心肺蘇生について、日本医師会救急災害医療対策委員会での報告についてご紹介いただいた。

【質疑】

- ・委員より消防関係者も当検討会議に出席いただき、ACPについて議論してはどうかと意見があった。
- ・委員より身寄りの無い方の意思決定における困難事例について詳細を尋ねられた。事務局より、身寄りの無い方について本人の意思が判断できない場合、特別養護老人ホームの職員が医療の選択について病院から尋ねられて判断に困っている事例を説明した。
- ・委員より、国がガイドラインを示しており、本人の意思が尊重されるが、意思が確認できない場合に意思が推定できるものとしてACPの必要性が示されている、と説明があった。

- ・委員より、身寄りの無い方の対応には苦慮している例が多いが、成年後見人の判断と ACP が混同されがちなので注意すべきとの意見があった。
- ・委員より、アンケートでは今年度 ACP の啓発に取り組む予定のない市町村があるが、リーフレットの配布などから始めていただきたいと意見があり、事務局から市町村の取り組みを支援する旨回答した。

【協議】

市町村の取り組みについて了承された。

(4) 令和4年度及び今後の取り組みについて

事務局より、令和4年度及び今後の取り組み内容について報告を行った。

【内容等】

①人材育成

- ・厚生労働省主催の相談員研修の実施。また、医療従事者レベルアップ事業における人生会議の講座及びあったかふれあいセンターコーディネーター研修における人生会議の説明を予定。

②県民啓発

- ・9月に県内3箇所で公開講座を実施予定。県政出前講座は現時点で3回開催予定。

③今後の取り組み

- ・これまで啓発資材の配布など広く啓発活動を行ってきたが、実際に人生会議を実施してもらえるよう、より身近な場所での啓発活動を支援する。
- ・市町村での啓発活動を支援する。
- ・引き続き、介護、医療現場における人生会議の取り組みを支援する。

【質疑】

- ・委員より、単独で ACP の取り組みができない市町村は、県も協力して複数の市町村がまとまって取り組んではどうかとの意見があった。事務局より市町村と協力して取り組みたい旨回答した。
- ・委員より、ACP の普及に関して県は今後 PHR の活用（※）に取り組むのか質問があった。事務局より、県として PHR の整備についてはまだ具体化していないが、デジタル化は重点政策であるので今後との検討となる旨回答した。
（※個人の健康・医療・介護に関する情報をデータとして一元管理し、一人ひとりが自身の健康管理等のため活用すること）
- ・委員より、ケアマネジャーの研修で県作成の人生会議リーフレットを活用したいと意見があった。
- ・委員より、地域での啓発活動が重要と思われるが、具体的にはこういった取り組みをするのか質問があった。事務局より、県作成のリーフレットも活用した

がら、地域の集いの中で人生会議を自分自身のこととして考えてもらえるよう、いきいき百歳体操やあったかふれあいセンター等で啓発をしたい旨回答した。

【協議】

令和4年度及び今後の取り組みについて承認された。

今回の協議内容について了承され、以上をもって閉会した。